

「米は偉大な国だ、がほっといてほしい」プーチンの世界の

見方語録 11 選

【訳者注】政治家として、人の心にしみ込む言葉を語る人は、他にもあるかもしれないが、大国のリーダーとしては、まずプーチンであろう。私の彼に対する敬意と敬愛はずっと変わらない。特に穿ったことを言うわけではない。ただ正直であり、虚勢を張ることもなく、どんな相手でも誇ったりすることはない。しかし世界に向って真剣に、辛辣に、忠告はする。彼のスピーチに聞き入る聴衆の顔を見ていると、哲学者か宗教家の話を聴くような表情を見ることがある。

特に、最後の語録「世界でのロシアの役割」を読んでみていただきたい。これは事情を知らない人が読み飛ばすなら、ただの、平和や民主主義念仏のように見えるかもしれない。しかしこれは全く違うものである。ここには、この我々の不幸な世界の縮図と、それと対決して克服すべき、我々の努力と責任のすべてのあり方が語られている。これは、我々に応答を求めるプーチンの心からの叫びである。

RT

December 23, 2017 (2018/10 月再掲載)



人気取り、プラグマティスト、権威主義者、狡猾な戦略家——彼がロシアの政治のトップに上り詰めて何年もたった今でも、西側の観察者は、ウラジミール・プーチンの本当の動機に

ついて戸惑っている。実は、このクレムリンの意思決定の背後に、首尾一貫して述べられた信念のつながりがある。

アメリカについて

「アメリカは偉大な国だ。おそらく今日存在する唯一の超大国だ。我々はそれを認め、彼らとともに働く用意がある。

「我々が必要としないのは、彼らが我々の問題に世話を焼いてくれ、我々がいかに生きるべきかを指図すること、そして、ヨーロッパが我々と関係を築くのを妨げることだ。」

——サンクトペテルブルグ経済フォーラム、2016年6月



ロシアが外国に干渉するという主張について

「アメリカのプロパガンダが絶えずあり、アメリカの NGO への直接の財政援助がある。…それは何年もずっと続いている干渉ではないのか？ 地球儀を取って、それをくるくる回して、どこへでも指を当ててみるがよい。そこにはアメリカの企業や、そこへの干渉がきつとある。

「アメリカ人は何を望んでいるのか？ すべての人が敬意を表して彼らに頭を下げることだ。我々は自分自身の意見を持っており、それを公然と表明する。それは、何か隠れて破壊するようなものではない。」

——プーチンとの直接電話、2017年6月

ヨーロッパについて

「ヨーロッパ諸国は、ワシントンの対外、いや国内政策の目的にでも、単に迎合することは、自分のためになるのだろうか？ 私は怪しいものだと思う。それは真剣な政策の目的だろうか？ そしてそれは、自分自身を大国と呼びたい国家が、引き受ける役割だろうか？」

——ロシアの投資呼びかけフォーラム、2016年10月

カタルニアの独立危機について

「一時期、EUは、ヨーロッパの国家の範囲全体が崩壊するのを歓迎し、自分たちの喜びを隠そうとしなかった。なぜ彼らは、それほど無思慮に——短期間の利益のためと、ワシントンの“ビッグブラザー”の機嫌を取るために——無条件にコソボの分離を支持し、大陸とそれを越えた所でも、同じ過程を取るように喉けたのだろうか？」

——ヴァルダイ討論クラブ、2017年10月



NATOについて

「ソビエト連邦はもう存在しない。東側ブロックも存在しない。私の考えでは、NATO は自分の存在を正当化するために、外なる敵を必要としていて、絶えずそれを探し求めており、もしどこにもなければ、それをつくり出す挑発をしなければならない。

・・・今日、それはアメリカの対外政策の道具になっている。そのパートナーというものは、従僕国だけが存在する。」

——オリバー・ストーンインタビュー、2017年6月

中東について

「政権交代によってであれ、武力行使によってであれ、外側のモデルをそこへ押し付けることによって、この地域を作り変えようとする試みが、ずっとあった。過激派と戦うのではなく、そのような戦いを制するのではなく、混乱が永久的な状態になることを望んでいる、一部の我々の同僚がいる。」

——ヴァルダイ討論クラブ、2017年10月

北朝鮮について

「もちろん我々は、北朝鮮の核実験を非難し、すべての国連安保理の決議に合意する。

「しかし、この問題を解決するには、対話を用いるべきであって、北朝鮮を軍事的脅迫で追い詰めてはならず、悪口や公的な侮辱の応酬に訴えるべきではない。ピョンヤンの政権が好きだろうと嫌いだろうと、DPRK（朝鮮民主主義人民共和国）が、主権国家であることを認めなければならない。」

——ヴァルダイ討論クラブ、2017年10月



ウクライナのビクトル・ヤヌコビッチの追い落としについて

「キエフで起こったことは、武力による、憲法に反する権力の奪取、つまりクーデタである。誰もそれに異論を唱える者はいない。

「問題は、なぜそれが、そのように行われねばならなかったのか、である。ビクトル・ヤヌコビッチはすでに権力を捨て去って、再び選出される可能性はなかった。なぜ国家を混乱に陥れるのか？ 権力を示威するためか？ それは馬鹿げた決定であって、逆効果だろう。私は、こうした行動こそが、この国の東部の情勢を不安定化したと考える。」

——ノボ・オガレーボ（大統領公邸）、2014年3月

キエフの政府について

「ロシア人とウクライナ人民の目指す利害は、同じである。同じでないのは、ウクライナ政府とエリートが目標とするものである。

「… 彼らが、国際的な消費のために輸出するもので、残っているものは一つしかない——ロシア恐怖症だ。そして、この2国間の分断政策だ。西側のある人たちは、これら2つの国家は、決して同盟を結んではならないと考え、そのように、ウクライナは、その考えを輸出するのに成功している。」

——ハンブルグ G20 サミット、2017年6月



キエフのマイダン広場における煙と反政府支持者たち。ここから抗議者と警察の衝突が始まった。2014年2月、キエフ市、ウクライナ

ロシアの政治システムについて

「君主制というのが、たとえ家の表札は変わっても、ロシア帝国からソビエト時代へと受け継がれた遺産だった。1990年代の初めにやっと、ロシアの発展の新しい段階の、基礎を築く出来事が起こった。

「確かにあなたは、我々が、アメリカやドイツやフランスと、同じ政治的モデルや、同じ構造を、直ちに作れるとは思えないでしょう。社会は、あらゆる生き物と同じように、段階を経て有機的に発達していかなければならない。それが正常な発達の過程です。」

——オリバー・ストーンインタビュー、2017年6月

世界でのロシアの役割

「ロシアは千年の歴史を持つ国であり、ほとんど常に、主権的な外交政策の特権を享受してきた。

「我々は今日、この伝統を裏切ることにはできない。と同時に我々は、いかに世界が変わったかをよく理解しており、我々自身に与えられた機会と潜在能力をも、現実的に理解している。我々は、責任感と独立心を持ったパートナーと、啓発し合うことを望んでおり、そのような人々と協力して、選ばれた少数者だけでなく、すべての人々のために、安全と繁栄を保証するような、公平で民主的な世界秩序を、構築したいと心から願っている。」

——ミュンヘン・スピーチ、2007年2月

以上